

BRUTUS 2002.2.13

服がその人を決める。

FASHION

好きな服を着た日は、思わず背筋が伸びる。不思議だ。服は私たちの体を覆い隠すものであると同時に、体を際立たせるものでもある。世界と私たちの間にあって、時には世界の側にあり、時には私たちの体の一部となる。服は見られるものでありながら、視線をさえぎるものでもある。流行の服を着た時にはわくわくし、流行が終わった時には恥ずかしく（そして悲しく）なる。どんな服を着るかで、あなたは判断される。（永）



『モードの迷宮』 鷲田清一／中央公論社／1,262円／今やファッションを語る哲学者として知られる著者も、そのファッション論はこの本から始まった。現象学的手法をファッション論に導入し、洋服を着る者と作る者の意識の変容を探求したモード哲学の画期的名著。



『性とスーツ』 アン・ホランダ／中野香織訳／白水社／2,800円／ドブネズミルック？ いえいえ、男のスーツほどセクシーなものはないのです。シンプルで禁欲的であるからこそ、内部の肉体を強調し、セクシーであることができるのだ。ならば近年のミニマリズムも？



『ファッションデザイナー』 テリー・エイギンス／文春文庫／安原和見訳／705円／有名ファッションデザイナーはどのようにに成り上がり、いかにしてブランド性を築いたのかというノンフィクション。イメージを作り、マーケティングを厳密に行う。まさにビジネスだ。



『スーツの神話』 中野香織／文春新書／720円／スーツ、それは男の制服だ。馬子にも衣装？ いやいや、誰でも着ればそれなりに見える。しかし、ちゃんと見せるには、これほど難しい服もない。スーツはどのようにして生まれ、完成に至ったのか、その歴史と全貌が。



『ブランドの世紀』 山田登世子／マガジンハウス／1,800円／私たちがその服を愛するのは、デザインがいいからではなく、私たちが欲していたからだ。これは高級ブランドを解説した本ではなくて、人々はどのようにブランドを受け入れ、支持してきたのかを解き明かす。